

VALENTINO

天才の生み出す「最後のエレガンス」

ティノは、究極の「憧れブランド」であり、構築的なフォルム、鮮烈な赤、女心を掴む愛らしいディテールに私たちは魅了されてきました。ヴァレンティノ・ガラヴァーニが引退を発表。しかし、あくまでもエレガントさを貫く、その姿勢が不変である限り、これからも憧れであり続けるのです。

熊澤 透、松本正志(P.132静物) スタイリスト/橋本早苗 ヘア・メイク/喜納祥一朗(maroonbrand) 取材・構成/柳武麻実 デザイン/ファブ 撮影協力/PROPS NOW

超然として、タイムレス

中野香織

幾何学アート柄。12センチのプラットフォーム。極太バングル。おそらく来年には恥ずかしくなるだろうが、今春はこうしたアイテムがファッションステイトメントとなる。この瞬間の時代の空気を楽しんで生きている、というファッションによる主張。

「セックス・アンド・ザ・シティ」の洗礼を受けたあとの時代においては、斬新なファッションステイトメントがいつそつまぐるしく去来するが、こんな風潮から超然として距離をおくブランドもある。その代表格が、ヴァレンティノである。

小手先のトレンドに右往左往することはないが、今も来年も美しい。とびきり上級のクラス感を漂わせるが、退屈ではない。構築的だが、堅苦しくはない。威厳と風格はあるが、どこまでもフェミニン。グレイのスーツが似合うヴァレンティノ・ガラヴァーニは、1962年から45年間、あくまで女性の美しさの永遠の王道を、真正面から追求してきた。タイムレスだからこそ、ジュリア・ロバ

ーツがヴァレンティノのワインテージを着てオスカーをとった姿は、当時も今も、古びない。ベルナデット・シラクが、夫がフランス大統領になった日にヴァレンティノを着た姿も。ジャッキーが彼のドレスでオナシスと結婚式を挙げた姿も。そのジャッキーの長所を、ヴァレンティノはこう語る。「ジャッキーのすばらしいところは、がんばりすぎないところ。シンプルなたらウザーズ、シャツ、コート、そしてサングラスをさらっと纏うだけ。トレンドに走ることはなかった」

小さな流行など無視していられる優雅な余裕が美しく共鳴し合い、ジャッキーはヴァレンティノの強力なスタイルアイコンとなった。

巨匠のあとを継いだアレッサンドラ・ファッキネッティは、最初のコレクションにおいて、豪奢な王道美に可愛らしさを加えた。美の道のどまんなかを悠々と歩くプリンセス、のイメージ。ぶれない超然感を今後も保ち続けてほしいブランドである。

「赤」がすべてを語る

ヴァレンティノの赤(レッド)のドレスは、ブランドの象徴。ヴァレンティノが学生時代、パルセロナオペラを観に行った際、全身赤を纏った女性に強く魅了され、赤は女性をヒロインにする力があると考えるようになったそう。その独特の赤は、日本の朱に近い色味。美しいドレス¥336,000(ヴァレンティノ/ヴァレンティノ インフォメーションデスク)



「ヴァレンティノ・レッド」を纏ったモデル。'00年のオートクチュール・コレクションから。ローマのオフィスにて撮影。

進化するブランドSTORY

ヴァレンティノ・ガラヴァーニは、北イタリアのヴォーゲラで1932年に誕生。パリに赴き、オートクチュールを学び、ジャン・ドゥ・セやギラロツシユのもとで研鑽を積む。その後、ローマに移り、62年、フィレンツェのピッツェイ宮殿で催されたファーストコレクションで一躍、注目を浴びる。顧客リストには、王室をはじめ、エリザベス・テイラー、ジャクリーヌ・オナシスらの名前が。68年の「ホワイト・コレクション」で、デザイナーの個性をアピールするモノ

グラムを考案。レディスとメンズのフレタホルテコレクションを発表。70年代から80年代はアメリカ、日本でもブティックをオープン。'01年にはディフュージョンラインのヴァレンティノ・ローマを、'03年にはカジュアルなレッドヴァレンティノを発表。オスカーをはじめとした特別な席や、ウエディングには、女優やセレブたちはこそって彼のドレスを纏うほど、ドレスには定評が。今年の秋冬コレクションより、アレッサンドラ・ファッキネッティが新デザイナーに。



(上)右はヴァレンティノ・ガラヴァーニ氏。左が後継者に任命されたアレッサンドラ・ファッキネッティ。2月末のバリ、秋冬プレタポルテコレクションのプレゼンテーションをもってデビュー。彼女のキャリアはミュウミュウ、グッチ、モンクレールなど。ヴァレンティノの持つフェミニティ、センシュアリティある魅力を引き継ぎ、進化するスタイルに今後も目が離せません。(左)右はオートクチュールを身に纏ったオードリー・ヘプバーン。'69~'70年撮影。左は'68年に発表された「ホワイトコレクション」より、花をイメージしたオートクチュールのドレス。

